

# M O O K

東北支部 笠岡 庸志

先日、会のホームページに「 という Mook に・・・」というようなことを書いた  
ら、それを見たある釣友から「Mook」ってなんのことかと質問が飛び込んできた。

私は自分の迂闊さを反省した。これは世間一般に通用している言葉ではなく、出版界  
の業界用語ではなかったのか。たまたま私が知っていたため安易に使ってしまったので  
はないか……。しかし、時折雑誌等でも見かける言葉でもあり、決して知ったかぶり  
や格好つけての用語ではなかったのに……。

少なからず慌てて、本棚の鯉釣り関連の雑誌類を引っ張り出して調べてみたら、やは  
り、あった。

例えば

桃園書房 昭和 59 年発行 『野ゴイ釣り』 TOIN MOOK

柙出版社 平成 13 年発行 『鯉釣りがわかる本』 エイムック

辰巳出版 平成 13 年発行 『川釣り 川遊び入門』 TATSUMI MOOK

いずれも表紙のタイトルの上に、社名+MOOK と表示してあった。

また、

'04 年廣済堂出版から「大ゴイ倶楽部」を引き継いだ形のコスミック出版は、'04  
春号から現在に至るまで奥付(最終ページ)に『Cosmik MOOK 大ゴイ倶楽部  
号』と記している。出版社は Mook であるとの意志を表示しているのだろう。

「Mook」これは英語の「Magazines」と「Book」を合体させた造語であり、国語辞典、  
英和辞典にも載っている。ただし英語では臨時語で使用頻度は低いらしい。

Mook は「モック」ではなく「ムック」と読み、雑誌と書籍の中間的性格のものを指  
している。大辞林では「単行本でありながら編集形態が雑誌のような出版物」と解説し  
ている。

しかし、読者にはこれは Mook で、これは雑誌だ、と明確に区分できるものは少ない  
のではなからうか。主に出版社側が編集方針・方向統一等のために用いているのかも知  
れない。

私たち読者は気にとめることなく「鯉釣り雑誌」と簡単に言っているが、それでいい  
と思う。現実にはムックだろうが、雑誌だろうが、知りたい情報が記されていれば、満  
足するのが読者である。ただ、たまには内容、構成、編集、傾向等に興味を持ちながら  
その本等の性格を併せ読むのも楽しいのではなからうか。

Mook という造語自体に顔をしかめる言語学者達もいるかも知れないが、現在女子高  
生の間で大流行している K Y(空気が読めない)などのローマ字の頭文字をつないだだけ  
の表記、表現とは全く異なり、Mook という言葉自体がある状態や意味を表す真面目な  
通用語だと思っている。